



理事長 しら いし やすし
白石 靖

(前編の続き)

波乱万丈の人生を送りながら、間部先生と父が立ち上げた社会福祉法人千寿会へ入職する道を選んだ白石靖理事長。当時の忘れられない経験を振り返りつつ、千寿会の未来への思いも語っていただきました。

入職当時のお話を聞かせてください。

私は生活指導員で事務処理やお金の管理が主な仕事だったのですが、実際には入浴担当も務め、毎日朝から夕方まで20名ほどの利用者様をお風呂に入れていました。次第にこの介助業務にやりがいを感じ始めたのです。前職の営業では売り上げを背負い、取引先への訪問に緊張やプレッシャーを感じる場面も多くありました。一方、この仕事はやればやるほど、利用者様や御家族様から感謝の言葉や笑顔が返ってきます。本当に楽しくて仕方がありませんでした。

入浴介助が終わった夕方以降は、御家族様に電話

をする時間。「今日はおばあちゃんこのような会話をしましたよ。こんな楽しいことがありましたよ」と報告していると御家族様との距離もどんどん縮まり、利用者様の知らなかった一面を教えてもらえることもありました。ちなみにこの電話は指示されたわけではなく、自ら行っていたことです。こうして自分の意思や感性で人を笑顔にできることに、おもしろさを感じていました。

今までで印象に残っている利用者様はいますか。

当時入所されていた、森下さんという男性の利用者様は忘れられません。脳梗塞で片麻痺があり、私はてっきり話せないものだと思っていました。ところがある日、奥様が「主人から聞きましたよ。いつもお風呂でマッサージをしてくれるそうですね」とおっしゃるのです。かなり驚きましたが、森下さんに「話せるならもっとおしゃべりしましょう！」と



提案すると、絞り出すような小さな声で「ハイ」と答えてくれました。聞けば、以前入院していた老人病院（現在の療養病床）では話しかけても誰も答えてくれなかったため、話すことを諦めてしまったそうです。

以降はすっかり打ち解け、「歩けるようになりたい」という願いを伝えてくれました。ただ、その時点では平行棒の中での起立が限界。考えた末、麻痺がある足の装具にベルトをつけて、私がタイミングを見計らい麻痺足をかかえ一歩進めながら歩いてもらう。そうして平行棒の片道を何分もかけてやっと歩き切ったのです。あ那时的森下さんの笑顔は今も私の心に残っています。

翌日、森下さんが嬉しそうに「自分の足で走っている夢を見た」と教えてくれました。かつては生きる意欲を無くしていた森下さんが、ここまで明るく変わったことに感激しました。

思いが叶った喜びが、笑顔呼び戻したのですね。

そうだと思います。その後も、さらにすてきな姿を見せてくれました。「カラオケが好きだった」と聞き、夏祭りで披露するために2人で秘密の特訓を敢行。当日、御家族様の前でサプライズで「さざんかの宿」を披露すると、奥様、息子夫婦、お孫さん達も感動の涙を流していました。

こうした変化は奇跡ではなく、利用者様がもともと持っている思いや力によって実現されたもの。私は力を取り戻すお手伝いをしていただけです。ただりハビリをするのではなく、その方の意欲を引き出せるかどうか重要なのだと実感しました。

理事長が考える「これからの千寿会」の姿についてお聞かせください。

高齢化が叫ばれて久しいものの、私たちが置かれた環境は必ずしも順風満帆ではありません。美里町では数十年の間に人口が現在の半分になってしまうといわれており、高齢者の数も減っていくと予想されます。

千寿会が10年後、20年後にも健全な運営を続けるための鍵は、「人材育成」と「広域的な事業拡大」でしょう。まずは、今頑張っている職員たちが施設長を務められる環境を整えたいと思います。それにより、ほかの職員たちも「千寿会は頑張った人が評価される場所だ」と実感し、夢を持てる組織にするのが理想です。

そして、法人としての体力を保つためには事業を拡大していくことも重要。美里町に加え、嘉島町や御船町にも施設をオープンし、より広域的に展開できるベースを作っている最中です。拠点が増えれば、職員たちの活躍の場が増えるメリットもあるでしょう。

将来的には理事長を誰かに引き継ぐわけですが、その頃には千寿会のことは職員みんなで決められる環境を実現しておくつもりです。その土壌を作ることも、私の使命だと考えています。

介護の喜びを知り、その輪を広げる場として千寿会を盛り立てている白石理事長。利用者様と職員の方々の笑顔のために、さらなる高みを目指していきます。



理念 特集

vol
01

～「心を大切に」とは～

理念「地域に愛され、 信頼される施設」づくりについて

笑顔がつなく心の交流

利用者様に安心感を持っていただけるように、表情や態度に気をつけて接しています。その1つが笑顔です。私たちが不安な気持ちでいると、利用者様にも必ず伝わってしまいます。気持ちは伝染するもの。だからこそ、常に笑顔で対応することが、利用者様の笑顔にもつながります。また一人ひとりの尊厳と自立を大切にすることも重要なことです。例えば、車椅子で生活している方でも、ご飯は自力で食べることができたり、少し立ち上がることができたり、症状は様々。利用者様のできることを尊重し、それを喜びに変えられるように接しています。

何より忘れてはならないのは、利用者様が築いてきた社会があるからこそ、私たちの今の生活があるということです。ご自宅での生活を望んでいる方も少なくありません。だからこそ、少しでも快適に過ごしてもらえるように、利用者様の気持ちを汲み取ることに努めています。

互いに助け合い、働きやすい環境へ

職員に活力がなければ、利用者様を元気にすることはできません。

千寿会の基本理念は「地域に愛され、信頼される施設」づくりを目指すこと。この理念に基づいた職員像、そして実際の行動とはどのようなものなのでしょうか？皆さんも一緒に考えてみましょう。

私が
お話しいたします

陽光園本館
マネージャー
井出 成美さん



また、福祉は離職率の高い職場です。そこで、イベントを開催したり、休みを取りやすくしたり、職員が働きやすい環境づくりに注力しています。子育て世代の職員が多いため、互いにフォローし合うことが大切です。そうすることで、全職員が元気でやりがいを持てる職場を目指しています。

さらに、介護福祉士や社会福祉士、ケアマネジャーなどの国家資格を積極的に取得できるよう、職場内での育成に取り組んでいます。専門性を持った職員を育成することで、より地域に貢献できる施設になるのではないのでしょうか。

理念に基づいた職員像とは

柔軟な対応と素敵な笑顔

相手の気持ちに寄り添える優しい心を持っている方です。利用者様と喜びも悲しみも、すべてを分かち合える関係性を築くためには、柔軟な対応が必要でしょう。精神面での強さ、体力も重要になってくると思います。そして笑顔が素敵であれば、何よりです。

ご家族様とも強い信頼関係を築く

以前、私が居宅介護を担当していたとき、一緒に利用者様の自宅を訪問したケアマネジャーの方がいました。利用者様はもちろん、ご家族様からも本当に信頼されており、その信頼関係は一朝一夕では築けないもの。それだけ親身にお話を聞き、お困りごとにもしっかりと寄り添っているからこそだと感じました。それを見習い、私自身も日々実践できるように精進していく所存です。

井出さんが見た!

理念に
基づいた行動

日頃の感謝を伝えよう!

ありがとうメッセージ

日頃なかなか伝えられない感謝の気持ち、社内報を通して伝えてみませんか？普段からお世話になっているあの人や、改めてお礼を伝えたいあの人に、「ありがとう」を届けます。

「ありがとう」を伝えたい人

From

グループホームひだまり

きた わかこ
北 和歌子さん



To 悠優みふね マネージャー 田村 美奈さん

いつも穏やかに優しい言葉をかけてくださり、
ありがとうございます!

田村さんの
尊敬しているところ

変化にすぐに対応できることや、手先が器用なところ。利用者様に接するとき、自分の家族のように言葉をかけること。自然と利用者様を笑顔にするとところ……。田村さんの尊敬しているところを挙げれば、枚挙にいとまがありません。

メッセージ

いつも利用者様のことを思い、優しい話し方をされる田村さん。田村さんのように皆さんの笑顔を引き出せるよう、日々の気づきを大切に、信頼関係を築くことが目標です!

「ありがとう」を伝えたい人

From

高齢者生活支援ハウス
太陽の丘

いなだ やちよ
稲田 八千代さん



To 社会福祉法人千寿会 元会長 白石 敬司さん

千寿会とのご縁をいただき、ありがとうございます!

白石元会長の
尊敬しているところ

誰にでも優しく、分け隔てなく接して下さっていたところを尊敬しています。毎日欠かさず、利用者様や職員に優しい笑顔で、ときには凛々しい表情で活を入れてくださった元会長。その背中を見ながら、そうなりたいと思い頑張ってきました。

メッセージ

元会長の姿を見て元気をいただいたことは数知れず。仕事に来る楽しみでもあり、意欲増進のもとになっていました。これからも元会長が見ていてくださっていると思いながら頑張りますので、応援よろしく願いいたします!